

# 施 工 要 領 書

2020年9月10日

## ピュアコートインテリア（内装用）

### I 適用下地

壁・天井：水性着色塗装面・塩ビクロス面・カラーフレキ面・カラーケイカル面・セメントボード面・コンクリート面・左官仕上げ面・ロックウール系化粧天井板

パーテーション：クロス製

その他：カーテン・ロールカーテン・ファブリック製ブラインド

《適応外下地》

水をはじく物へは施工できません。

光沢がある物や濃色面にはお控えください。光沢が無くなりムラになり易く、濃色面にコーティングすると変色する可能性があります。

木部面、木部調仕上げ面、金属系素材及び金属系での溶剤塗装仕上げ面にもお控えください。

金属仕上げ面は水性塗装をしている場合もありますので、試験施工にてご確認ください。

※コーティングによる変色やムラがでるような物には外観を保つ為に使用を控えて頂きたいですが、そのような箇所にコーティングした場合にも光触媒の機能は発揮します。

### II スプレー塗装

工程	材料	調合 (重量比)	2回での所要量 (g/m <sup>2</sup> )	塗 回 数	最終乾燥時間
下地調整					<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーティングしない面は養生して下さい。</li> <li>・現地で着色塗装を行った面へ施工する場合、着色面が完全に乾燥している事を確認後、コーティングして下さい。</li> <li>・汚れや付着物は除去して下さい。</li> <li>・接着剤等の付着物も除去してください。変色の原因となる場合があります。</li> <li>・施工時は十分な換気を行って下さい。</li> <li>・施工中、植物は外に移動してください。</li> </ul>
スプレー 縦横での吹付けを1 回とし2回に分けて 吹き付ける。	ピュアコート インテリア	既調合	空気圧 0.1mp 40g～50g  空気圧 0.05mp 35g～45g	2	養生は目視で乾燥を確認後撤去して下さい。 2～3時間程度は出来る限り触れないようにして下さい。

※ 1回目から2回目塗装を行なうまでの乾燥養生時間は夏15分 春秋20分 冬30分が目安。

濡れた状態が見えなくなれば2回目の吹付けは可能です。

上記の数値は、施工方法、条件により多少変化する場合があります。

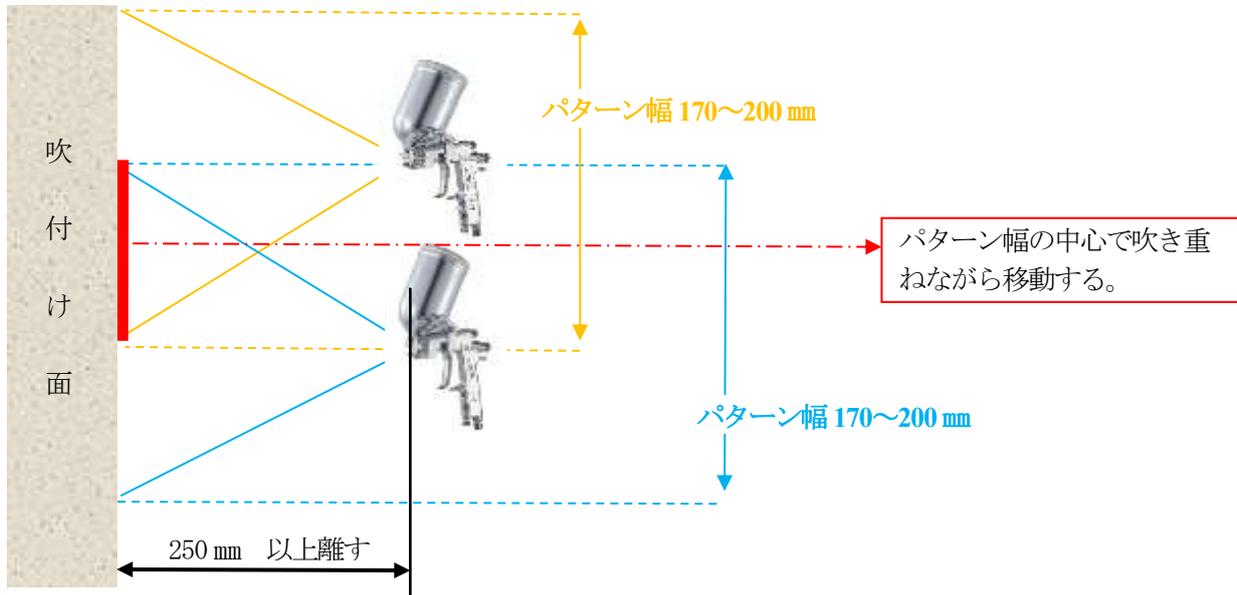
### III 塗装方法

作業開始から作業後のコーティング材が乾燥するまでは十分な換気を行って下さい。

施工方法 (吹付け)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 非施工箇所は可能な限り養生を行って下さい。</li> <li>② 既存の塩ビクロスや塗装面にコーティングする場合は表面に付着した埃や汚れを除去して下さい。</li> <li>③ スプレーガンは明治機械製作所 F110-G10 重力式 φ1.0mm若しくは同等品を推奨します。</li> <li>④ ※コンプレッサーの圧力を0.1mp～0.05mpに設定し、吹付け面から25cm離れたときに17cm～20cm幅でコーティング材が付着するよう設定して下さい。</li> </ol>
---------------	---

	⑤ 縦横で1回吹付けし、夏 15分 春秋 20分 冬 30分乾燥させて2回目をもう一度縦横で吹付けてください。 ⑥ コーティング材が乾いたら養生を剥がしてください。 ⑦ 完全乾燥までは2時間～3時間です。
--	--

施工方法（吹付け）の※④の横吹きでの吹付けイメージ



#### IV＜共通注意事項＞

- ① 適用下地をご確認ください。艶あり面や金属面、溶剤塗料、弱溶剤系塗装面はハジキや接着力が十分ではないため使用を控えてください。濃色や木部への使用もお控えください。
- ② 規定量以上塗装した場合、変色や塗装ムラが発生する場合がありますので注意して下さい。
- ③ **容器の底に沈殿物（光触媒成分）がありますので、施工直前に完全に沈殿物がなくなるまで攪拌して下さい。**
- ④ 可視光、光触媒の性質上、完全な透明ではなく吹付け面の色により、少し白やグレー、黄色味を帯びます。目立たない箇所等で色相変化が許容内であるかを確認するため試験的に施工するか、見本板等を使い確認塗りをしてください。
- ⑤ 材料はできるだけ手に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛などを着用する。また顔、手、腕には保護クリームを塗って材料が直接手に触れないようにして下さい。
- ⑥ コンクリートや左官面に施工する場合はpH10以下、含水率8%以下になるまで乾燥させてください。
- ⑦ 使用前にSDS（製品安全データシート）もご参照下さい。
- ⑧ 結露面には施工できません。
- ⑨ 性能を得るために、必ず上記記載通りの施工を行って下さい。
- ⑩ 塗装終了時の残材料、洗浄水等を河川に流出させたり、土壤に染み込ませないで下さい。

#### ＜気象条件＞

- ① 気温5℃以下、湿度75%以上、結露の発生が考えられる場合の施工は避けて下さい。

#### ＜材料の保管＞

- ② 開封後は14日以内に使い切り、それ以降の施工では使用しないで下さい。
- ③ 直射日光にあたる場所、0℃以下での保管はしないで下さい。

**V 補修方法（補修が出来る限り少なくなるよう、試験施工を行って下さい。）**

- |  |
|--|
| <p>① 施工完了直後のタッチアップ塗装箇所<br/>⇒乾燥後、再度光触媒を施工して下さい。</p> <p>② 塗料の垂れが残ってしまった場合<br/>⇒乾燥していない場合は水を含ませたウエス等で拭取り、ピュアコートインテリアを再施工して下さい。<br/>とり切れない場合は、アルコールで拭取って下さい。<br/>※アルコールで拭取りを行う場合は下地を痛めない事を確認して下さい。痛める場合は水で希釈するなど下地材に適した濃度に希釈してください。</p> <p>③ 塗装面での拭取り箇所が斑になる場合は着色塗装から再施工して下さい。</p> |
|--|

※本製品は下地材の耐候性を上げる（保護）することを目的としていません。

※光触媒は表面に光触媒成分が残っている限り効果は持続しますが、表面に付着する埃等は吸着ドライシートやクリーニングにて定期的に除去することをお勧めします。

施工に関するお問い合わせ

**株式会社ピアレックステクノロジーズ**

研究センター 〒595-0016 大阪府泉大津市条南町 4-14

TEL:0725-22-5361

FAX:0725-22-5363

東京営業所 〒111-8520 東京都台東区寿 3-14-11

蔵前チヨダビル7階

TEL:03-5830-0055

FAX:03-5830-0056